

学会印象記

第11回日本下肢救済・足病学会学術集会

会 期：2019年6月28日(金)～29日(土)
会 場：神戸国際会議場，ポートピアホテル(神戸市)
会 長：寺師 浩人(神戸大学大学院医学研究科形成外科学 教授)

村井 信幸

神戸大学 iPS 細胞応用医学分野

第11回日本下肢救済・足病学会が2019年6月28日～29日、神戸国際会議場において開催された。近畿地方が例年より遅れて梅雨入りをした矢先の開催で荒天も危ぶまれたが、会期中は小雨が降る程度で参加者は1,400人と例年を上回る盛況であった。

日本下肢救済・足病学会は増加する下肢末梢動脈狭窄症や糖尿病性足潰瘍など高度なチーム医療や産学共同プロジェクトを必要とする領域においてあらゆる職種・業界が結集して共同で検討し研究を行うとともに、下肢救済と足病の治療・ケアとそれらにかかわる問題を積極的に取り上げる場として2009年に設立された。

参加する医師の診療科は糖尿病内科や循環器内科、

心臓血管外科，整形外科，形成外科と多岐にわたり医師以外にも看護師・リハビリ・装具技士や企業会員の発表が多いという特色がある。

この学会は本学術集会を最後にフットケア学会と統合し「日本フットケア・足病医学会」として法人化されることとなり最後の学術集会は神戸大学形成外科の寺師浩人教授が会長を務められた。

学会1日目にはWenjay Sung (Global Podiatry Inc.)氏が足病医の立場から，S.Tawqeer Rashid氏 (Consultant in Vascular and Endovascular Surgery, Manchester Royal Infirmary)が心臓血管外科の立場から講演された。

また，展示ブースでは二分脊椎患者へのチャリティ



会場の神戸国際会議場

SAMPLE